島根県公立小中学校
事務職員研究会
会　長　：　吉　賀　孝　則
（川本町立川本中学校）
編　集　：　情　報　部
VOL.78　2023.12.12（時雨号）
発行責任者　坂井　佳恵（大和中学校）
島事研ホームページ
http://shimajiken.com

爽

【　目　次　】

- 学校を変えていくことのできる存在（副会長）
- 第 53 回研究大会　参加者の感想
- 研修報告
- 美郷町の共同実施について
- 学校紹介
- まんが「しまじぃとけんくん」
- 編集後記

学校を変えていくことのできる存在

副会長　岡　田　由　美

早いもので令和 5 年も 12 月を迎えました。例年より早い初雪にお目にかかることができて，何だか得した気分になっています。

さて私事ですが，9 月に病気休職から復職し，浦島太郎気分を味わっているところです。1 年余りの休職期間でしたが，私が勤務する塩冶小学校では，生活時程の見直しや会議の精選等の業務改善が行われており，働き方改革の加速を実感しているところです。事務部からも「時間泥棒を退治する」をテーマに，働き方改革にベクトルを向けて，小さいながらも業務改善を提案しています。

【「Let’s　Stamp」出勤簿を学年ごとに分冊して押印を促進！】

【“目立つ化”と“おたがいさま”で効率的なコミュニケーション　みんなにプラスの伝達を】

【あら不思議・・・使ったら元に戻したくなる ICT 関係物品管理】　等々

些細なことではありますが，自分が楽しくなるようなキャッチフレーズを作り，いろんな人を巻き込み，助けていただきながら，日常の困り感や問題の改善に取り組んでいる今日この頃です。

さて，先日の研究大会には，参集及びオンラインによりたくさんの会員の皆さんにご参加いただきありがとうございました。4 人の方からは貴重な実践発表，そして妹尾昌俊様からは講演いただき，まさに『学校を変える力になる』ためのヒントやアイディア，そしてエネルギーや勇気をいただくことができたと思います。自分の立場や役割から，自信を持って学校を変えていくことのできる存在になっていきましょう。

暖冬の予報とはいえ，これからぐんと寒くなります。健康に気をつけて良いお年をお迎えください。

第53回 島根県公立小中学校事務研究大会 参加者の感想

期　日；令和　5年11月17日（金）
会　場；島根県芸術文化センター「グラントワ」

＜　基礎研究発表　＞

実践発表者	雲南市立寺領小学校	主　事	角森　仙	「予算に関すること」
	川本町立川本小学校	事務主幹	天津　史子	「教育活動に関すること」
	雲南市立加茂中学校	主　任	堀江　恵一	「教職員の勤務に関すること」【紙面発表】
	隠岐の島町立西郷小学校	事務ﾘｰﾀﾞｰ	中西　文江	「就学支援に関すること」【紙面発表】

角森さんは，自分の学校の課題をきちんと把握しておられ，改善に向けて自分の得意分野を生かしてすすめておられる姿勢が素晴らしい。行事における予算管理表は，ぜひ参考にしたい。天津さんは，カリキュラムマネジメントにしっかり携わっておられ，事務をつかさどるということがしっかりできておられる。スクールサポートスタッフやＩＣＴ支援員を巻き込み，子どもの目線を生かしたアンケート結果から学校改善をすすめておられ，理想的な取組だと思う。できることできないことはあるが，参考にしたいと思う。

角森さん，発表内容がすっきりまとめられていて，とても解りやすかったです。光熱水費やコピー使用料の周知について，回覧しても反応が薄いという点，とても共感できました。私は見たい人だけ見ればいいやと諦めていたので，一手間加えて，周知方法も工夫されたのはすごいことだと思います。ＩＣＴが苦手な職員にどう説明するか？という，受け手の立場を意識した試行錯誤も素晴らしいと思いました。作成されたマニュアルは，当該年度の職員はもちろん，次年度以降異動して来た職員や後任の事務職員も助けることになると思います。天津さん，児童アンケートや授業見学カードなど，詳しく見たいと思ったものを研究集録に入れていただいており，理解が深まりました。川本町のサポートセンターという素晴らしい組織を最大限活用しておられるところ，児童の声や自分の目で見た学校の様子から環境改善を進めておられるところ，とても興味深い取組でした。また，チーム川本のために，事務職員としていかに関わるかという思いを持って仕事をしておられるところ，自分がいなくなった後も継続できるような仕組みなど，私も将来そんな事務職員になりたいと思いました。堀江さん，教職員の時間外勤務時間の削減という，自分の努力だけでは達成できない可能性があることを目標に設定されたのは勇気があることだと思いました。きっと，自分だけで扱える課題に留まらず，学校全体の課題に取り組もうという思いがあったのだと思いました。簡単に真似できることではないですが，堀江さんが作られたような綿密なデータがあれば，信頼できる意見になると思いました。また，まとめの部分で，効果はあったが，業務拡大，多角経営を目指した研究活動が学校事務職自身のワークライフバランスを犠牲にしてまで行うべきであるかは疑問である，という別の視点からの考察があり，学校全体の課題に取り組みながらも，自己犠牲のうえでみんなが楽になればいいという結論にならなかった所が，本当の意味での働き方改革のために忘れてはならない考え方だと思いました。中西さん，生徒が安心して過ごせる環境作りのために，教育委員会と連携，小学校の担任や特別支援教育コーディネーターと協力しながら進めていかれたことが素晴らしいと思いました。また，学校経営方針を元に事務職員として支援できることはないか？という視点で目標を立てられたのは，とてもレベルの高いことだと思いました。私は現状，学校教育目標や学校経営方針を意識しようとデスクマットに挟んで時々眺めたりするぐらいの関わりだったので，自己目標に掲げて年間の業務の中で日々関わっていくというのは目指すべき姿だと思いました。

今回の研究発表を聞いて，事務職員が学校運営に参画するということはこういうことなのかと勉強になりました。授業参観や子供へのアプローチなど教員にくらべて尻込みしてしまう部分もありますが，そこから気付けることがたくさんあると感じました。

角森さんの発表は，どれもとても参考になりましたが，特に行事における予算の管理が印象に残りました。他の職員とも共有できるし，全体も把握できるので，私も作りたいと思いました。天津さんの発表では，子どもにアンケートを取るということが違う目線で気づきがあり，新しい発見ができることがよくわかりました。参考にしたいです。ありがとうございました。

色々な方法で工夫をされて業務をしている先輩方の発表を聞いて，勉強になりました。特に，学校内アンケートで子供たちの声を直接聞いて，それを反映するやり方はとても良い考えだと思ったので自分の学校でもやってみたいと思いました。

取り組んでみたい内容がたくさんあり参考になった。事務職員だけではなく児童や管理職，教職員と一緒に学習環境整備に取り組んでいるところがすごいなと思った。予算の有効活用は，自分自身も目標にしており，今回の実践発表はまさに有効な活用だと感じた。

＜　講　演　＞

演　題　　学校を変える力になる　～　学校改善，業務改善の考え方と方法　～

講　師　　教育研究家　一般社団法人ライフ＆ワーク代表理事　　妹尾　昌俊　氏

普段自分が行っている業務の面倒な点など，書き出すと色々あるなと思いました。日々の業務で忙しくしていると気づかなかったなと。業務改善と聞くと何か大きなことをしなければならないと思い「自分には無理」と思っていましたが，妹尾先生の「いいと思ったら即パクる！」という言葉を聞き，本日聞いた実践などを勤務校でもできそうなものはやってみようと思いました。それが私の業務改善の第一歩になりそうです。

学校改善，業務改善に取り組みたいという気持ちはありますが，いろいろ考えてしまい，なかなか一歩がふみ出せません。「いいな」と思ったことをまず試してみて，直していったらよいといわれたのが印象に残っています。何でもいいので，何かやってみることで達成感が味わえ，成長につながるのではないかと思いました。一歩を踏み出してみます！

仕事の先には何があるのかを考えながら日々業務に取り組むことが大切だと分かった。また，努力することを考えるのではなく，努力をせず楽に仕事ができるような方法を周りと一緒に考えていくことも大切だと学んだ。ペアで話し合う時間もあり，より深い学びができた。また妹尾さんの講演を聴いてみたいと思った。

学校生協のちらしによく著書が載っているので，妹尾先生のお名前は印象に残っており，ミーハーなのですが，今回の講演はとても楽しみにしていました。オンライン参加でしたが，現場のリアルな状況，保護者としての立場からの意見など，ざっくばらんにお話しされて，面白かったです。「あなたの仕事の先には何がある？」「学校にいる意味，あるの？あるとすれば，どういう意味で？」という問いかけは，ドキッとしましたが，目を逸らさずに考えなければいけないと思いました。業務の効率化，業務の精選，外部人材やＩＣＴ活用などによって時間を生み出し，その時間を本当に力を入れて取り組みたいことに使えると，良い仕事ができると思いました。日々の雑務や残務処理で時間は一瞬で消えていくので，そもそも，時間ができたときに本当に力を入れて取り組みたいことは何か？というのもよく考えておかなければいけないと思いました。

今回の講演では，「批判的内省」と「良いものは即パクれ！」という言葉が印象的でした。前例踏襲の文化が根強い学校では，「そもそも何のためにやっているのか」と考えることを避けてきたと思います。本当に必要か，費用対効果はあるのかといった観点から根本的に見直し，問い直し続けることが大切だと思いました。また，学校現場では「真似をする」ことを避ける（楽をしているように見えることを嫌う）印象がありますが，「良いもの」はどんどん取り入れようとする姿勢を大切にしていこうと思います。

研修報告

事務主幹フォローアップ研修に参加して

益田市立中西小学校　佐藤 郁恵

８月31日,９月１日に事務主幹フォローアップ研修に参加しました。2日間多くの研修がありました。今回は特に印象に残ったことを3つ紹介します。

①特別支援教育について

研修を受けて,子どもや保護者の困り感を知り,支援の手立てにつなげることの大切さがわかりました。つなげるためには,気づくこと。気づくためにはしっかりアンテナをはって日ごろから子どもたちとのかかわりや職員室での会話を大切にしていきたいです。特に合理的配慮については,その子に必要なものは,それぞれ違うということを理解したうえで,職員と連携しながら教育活動にかかわっていきたいと思いました。研修後に,さっそく特別支援学級の備品について予算資料を作成する機会がありました。担任と合理的配慮について話をして,この子にはこれが必要だとか,あの子にはこういう備品が設置してあるとこんなことができるようになるといった話をしながら予算資料を作成しました。

②教育の情報化について

GIGAスクールは,多様な子どもたちにとっては学ぶスピードがそれぞれ違っているから,情報機器を使うことで個別最適な環境づくりにつながることがわかりました。私は情報機器やその活用について疎く,使うことにいつも不安感ばかりがあります。今回の研修では一人ひとりがタブレットを持ち,児童生徒と同じようにアンケートに答えました。みんなの意見をタブレット上で見て,互いの意見を伝えあう演習をとおして,授業の中でどう活用されているのか,どういうよさがあるのかを実感しました。そして,タブレットの操作や指示がわからなくなった時に教育センターの方に,そばで教えていただきました。学校でも同じように,いつでもわからないことを聞ける体制があることが大切だと思いました。

また,情報セキュリティーについての説明の中で,学校にどのような情報資産を保有しているのか,そしてその情報の重要性についてそれぞれの学校で考えていくことの大切さを学びました。紙媒体やどんどん普及しているサーバーやクラウドでの情報管理が安心安全に使えるように,教職員全員で管理の意識を確認することが大切だと強く感じました。

③グループ討議

２日間で何度もグループで討議する機会がありました。「財務マネジメントとカリキュラム・マネジメント」や「中央研修報告」などを聞きそのあとにグループに分かれてグループ討議を行いました。各学校の予算状況やその課題の解決に向けて話をして,各学校の課題などについてアイデアやアドバイスをもらいました。市町が異なるため課題も異なり,いろんな意見や情報をもらうことができました。学校での悩みはどの学校でも同じものや,その学校特有のものもありますが,昨年度の研修に引き続き同じメンバーなので話は盛り上がりました。

研修を受講して,子どもたちの学びをより良くするために,私たちに何ができるのか,何をしなければいけないのか,事務職員の視点で見つめることは大事だと感じました。それから,現状をしっかり把握して,職員と目的を共有した上で,業務改善や事務グループ活動を進めることが大切だと思います。自分だけで抱えこまず,コミュニケーションをしっかり取り,職場や事務グループ内で,「チーム」として動くことの大切さを改めて学んだ研修でした。

美郷町の学校事務共同実施について

美郷町は平成２０年度から共同実施が始まり１６年目を迎えています。小学校２校，中学校２校で加配１名を受け５名で活動を行っています。

「学校事務の支援」・「職員，児童生徒，保護者への支援」・「事務職員への相互支援」の３つの支援を充実させることで，**学校力の向上**につなげられるよう取り組んでいます。

共同実施の目標

『児童生徒の進路保障』と『職員が安心して働ける環境づくり』

〇美郷町内の学校事務の支援（整備）

〇美郷町内の児童生徒の学習環境づくり・職員が安心して働ける職場環境づくりのサポート

取組内容

◎学校事務の支援

＊校長会・教頭会との連携（学校力向上の支援）

・町校長会と合同で共同実施協議会を開催し取組内容について共通理解を図ると共に教頭会でも取組について説明する。

・管理職の理解と協力を得ながら主体的・積極的に学校運営に参画することで，学校力の向上を目指す。

・担当部会会場校の管理職の話を聞き，チーム学校の一員として今後の活動に役立てる。

＊教育委員会との連携（学校事務の支援）

・学校予算や学校施設設備等について情報共有し，児童生徒・職員にとってより良い学校環境に改善できるよう教育委員会と連携を図る。また，教育長講話を今後の活動に活かす。

＊地域の想いや願いを知る（人権・同和教育研修）

・隣保館での人権・同和教育研修や民生児童委員連絡会へ出席し，地域の想いや願いを知り，事務職員の資質の向上と児童生徒の進路保障の充実につなげる。また，地域と共にある学校づくりの視点から事務職員として実践できることを検討していく。

◎職員，児童生徒，保護者への支援

＊学習環境予算の充実（修繕・大型備品要望の長期計画の見える化）

・町教頭会と合同で４校全体を見通した修繕計画になるよう「学校修繕・備品要望書」を作成する。教育委員会・校長会・教頭会と連携しながら，各学校の学習環境の改善を支えていく。また，施設設備及び備品修繕のカルテ（修繕履歴）を作成し，事務引継ぎに活かす。

＊情報提供（職員，児童生徒，保護者への支援）

・郡教研事務部会と連携した，「事務だより・事務のしおり」を共有し，職員に有益な情報を提供する。就学援助制度・奨学金制度・転出入の手続き等について，最新の情報を提供する。

◎事務職員の相互支援

＊事務職員同士の連携（美郷町の教育支援）

・美郷町内４校，小・中間，校種間，それぞれに情報を提供し合い，共有することにより美郷町の教育支援につなげていく。

・定型業務の点検及び確認を行い，正確な事務処理を行う。

・教育委員会や各学校が連携を深め，事務業務の適正化・省力化をめざす。

＊事務研修，研究会への参加等（事務能力の向上，視野・知識拡大）

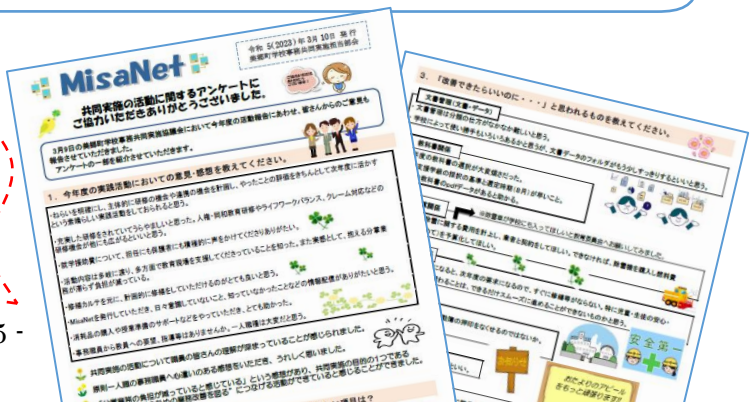
・実務・事例研修等を行うことで，事務職員の資質能力の向上を図り，事務能力の偏りをなくす。

・研修や研究会に参加し，実践活動の発展と個々の知識拡大につなげる。

・他地域の共同実施の取組を学び，導入可能な取組があれば実践していく。

共同実施の評価は全職員にアンケートを取って実施しています（アンケートフォーム使用）。次年度へ向けて，改善点や取組内容を検討するための貴重な資料となっています。

・アンケート結果をまとめた事務だよりを年度末に発行します。（昨年度のたよりです⇒）



学校紹介　松江市立母衣小学校（まつえしりつほろしょうがっこう）

主任 米田 翔吾

「両足とび 交差サイクル～♪」

この時期になると，軽快なリズムに乗ってこんなセリフ（音楽）が校内に響き渡ります。長年本校で積極的に取り組まれているなわとびの音楽です。3学期のなわとび集会に向けて，1年生から6年生が各学年のレベルに合わせて軽やかに跳んでいます。

そんな母衣小学校も明治6年に開校され，創立150周年を迎える節目の年です。現在は“北田町”にある母衣小学校ですが，当時は名のとおり“母衣町”にありました（今の松江赤十字病院の駐車場あたり）。着任当時，校歌の中に“松江のまなか”と在ることを不思議に思っていましたが，後に当時の母衣小が城下町付近であったことを知り，納得したことを思い出します。昭和44年にここ北田町へ引っ越しし，現校舎は3校目の19年目です。

10月，この創立150周年を記念し，教育後援会の皆様のご発案で，校歌を彫り込んだ記念石碑を建立しました。学校の正面玄関前にある「母衣の森」と呼ばれる所に設置し，先日の地域文化祭では，多くの地域の方にも来校いただき，お披露目することができました。また，校区にある企業様のご厚意で，ドローンでの航空写真撮影も行いました。全校児童496人，教職員51人で「ホロ」の人文字を作り，私は「ロ」の2画目に立ちました。そう巡り合えない貴重な体験ができ，少し嬉しかったです。

前述のなわとび活動のほかにも，年2回あるミニコンサートも本校の特色ある行事の1つです。希望児童・グループによる歌唱や演奏，ダンスなどの音楽発表の場となっています。発表前は緊張している様子の児童も，発表後の達成感に満ちあふれた清々しい姿を見ると，こちらまで満足感を味わえ，心が満たされます。

このように，子どもたちがのびのびと学校で過ごせるよう，私自身も色々な行事や活動に積極的に関わり，先生方とコミュニケーションを取りながら，よりよい学校づくりを目指しています。母衣小150年のうちの6年間に携われたことを誇りに思い，これからも子どもたちの成長を見守っていきたいと思います。

原作・画　：　佐伯　圭一

【編集後記】

先日，「ゴジラ-1.0」を観た。子どもの頃から慣れ親しみ，恐れてきたゴジラだが，歴代ゴジラ映画の中でゴジラはしばしば「傲慢になってしまった人間自身」などと例えられることがある。私たちの中にも大なり小なりそんな「ゴジラ」はいるのだろうが，ゴジラと上手く付き合い私たち自身がゴジラにならなければ，ゴジラに破壊された街や人々は生まれないだろう。（M.K）